



2016年(平成28年)1月15日

発行：東京都立大学 附属高等学校同窓会 〒152-0023 東京都目黒区八雲 1-1-2 桜修館中等教育学校内 編集：同窓会報編集委員会

第1回「八雲が丘ホームカミングデー」を開催

昨年11月21日(土)、初めての「八雲が丘ホームカミングデー」が開催されました。この企画は、卒業後50年と25年を迎えた都大附高卒業生と、桜修館の卒業生に、久しぶりに八雲が丘に帰ってきてもらおうというものです。今回は都大附高15期と40期、桜修館1期のみなさんが対象でした。

ようこそ 八雲が丘へ

ホームカミングデーの会場となった「めぐろパーシモンホール」は、かつて旧制府立高校以来の校舎があった場所に建てられています。都立大学の八王子移転以降、八雲が丘のキャンパスは大きく様変わりし、東側5分の3が「めぐろ区

民キャンパス」となりました。木造校舎やテニスコート、プールがあった西側の5分の2が、いまは桜修館中等教育学校となっています。

歓迎式典と懇親パーティー

パージモンホール・小ホールでの記念式典は11時に始まり、まず全員で校歌を斉唱。理事長挨拶に続いて桜修館・金田校長より「旧制府立高、都大附高、桜修館と続く縦の絆を大事に」と歓迎の言葉をいただきました。また、PTA高島会長からは現在の桜修館について詳しい説明がありました。スライドショー「八雲が丘に学んで」では、15期を中心にそれぞれの期に関わる写真が映し出されました。

午後1時からの懇親会に先立ち、桜修館の副校長先生の案内により桜修館校内の充実した諸施設を見学。立食式の懇親会は、各期入り乱れての交歓会。最後は学生歌、記念祭歌を合唱して、気分は一気に高校時代に戻っていました。



記念式典は小ホールに椅子を並べて行われました。大画面に高校生時代がよみがえります。



笠原、浜田両副校長先生に率いられて校内見学。充実した施設、設備に感心しました。

来年は、16期、41期、桜修館2期の皆さんをお招きします。ご期待ください。



都大附高15期、40期、桜修館1期合同の懇親会。久しぶりの再会に話が弾みました。

INDEX

- 初のホームカミングデー 1
- 桜修館・十年目から未来へ 2
- 第3回「八雲が丘賞」 3
- 3年ぶりの総会報告 4
- 府立高校日友会の足跡 4
- 事務局インフォメーション 5
- 第67回記念祭報告 6,7
- 懐かしの恩師、寄稿 8
- 寄稿、会則・細則の改定 9
- 同期会・クラス会・同好会 10,11
- 訃報、会費納入のお願い 12



最後に全員集合して記念撮影

十年目から未来へ

都立桜修館中等教育学校長
金田 喜明



明けましておめでとうございませう。都立大学附属高等学校同窓会の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。

昨年十月十日に、めぐろパーシモンホールで開催いたしました桜修館中等教育学校創立十周年記念式典及び祝賀会には、同窓会の皆様にも多数ご出席いただき、心より感謝申し上げます。式典では、宍戸理事長から「桜修館の生徒で埋め尽くされた会場の景観に圧倒された感無量となった」という賛辞から始まり、「桜修館の創立十周年の向こうに、六八周年、八四周年、八七周年と三つの周年がある」「八雲が丘に流れる、自主自立を尊ぶ自治と自由、真理の探究の精神を今後ますます力強く受け継いでいってほしい」というメッセージをいただきました。この理事長の熱い思いに対しては、式典二部において、クラマチ・記念祭・合唱コンの幹部を経験した六年生三名と五年生の現自治会長が、「自由と自治を受け継ぐために、生徒みんなですっかりと考えて行動していこう」という趣旨の話をしてくれました。在校生の心に響いたものと確信しています。

また祝賀会には、旧制府立高校、都立大附属高校の同窓生の皆様に加えて、桜修館の一期・二期の卒業生約六十名も出席しました。これが、三校の同窓生が初めてそろった会合となったわけです。桜修館の卒業生諸君も、諸先輩方と親しく話す機会を持つことができました。近い将来、彼らが桜修館の同窓会を立ち上げ、八雲が丘学友会の一員となって、共に

活動していく見通しが立った気がいたします。ぜひ、桜修館の卒業生諸君にも皆様からお力添えをいただければと存じます。最後に、桜修館の現況について報告いたします。今年度に入りまして、雑誌等の取材や各地の学校から視察・訪問の依頼が急増しています。これは、本校の進学実績だけでなく、これまで

で取り組んできた論理学習や研究論文等の教育活動が全国で注目されている証しだと思えます。現在六年生の五期生の諸君も自分の進路実現のために毎日頑張っており、一期生から四期生までの進路実績と変わらぬ結果を出してくれるものと期待しています。部活動では、前期弓道部が、全国中学生弓道大会で女子団体準優勝という輝かしい結果を残しました。後期弓道部も、東京都新人大会で男子が団体優勝して全

国高等学校弓道選抜大会に出場しました。また水泳部では、男子二百メートル個人メドレー及び男子二百メートル自由形で全国高校総合体育大会に出場しました。さらに三年生有志が、関東・甲信越地区中学・高校ディベート選手権で準優勝して全国大会に出場するなど、前期・後期生徒とも多方面で活躍しています。結びに、今年が都立大学附属高校同窓会にとって、益々良い年になりますようお祈り申し上げます。

祝辞を述べました。続いて行われた第二部は、在校生による10年インタビュー、吹奏楽部による記念演奏などが開催されました。大ホールで開かれた記念式典には、旧制府立高校同窓会、都立大附属高校同窓会から来賓として11人が出席。同窓会からは理事長が

桜修館創立 10周年記念式典・祝賀会

昨年10月10日、めぐろパーシモンホールで記念式典と祝賀会が開催されました。大ホールで開かれた記念式典には、旧制府立高校同窓会、都立大附属高校同窓会から来賓として11人が出席。同窓会からは理事長が



大ホールを埋め尽くした桜修館全校生徒



式典第二部・吹奏楽部の記念演奏



学生歌「春といふ」合唱



旧制府立高の大先輩も



校長先生の締め大きな拍手

祝辞を述べました。続いて行われた第二部は、在校生による10年インタビュー、吹奏楽部による記念演奏などが開催されました。大ホールで開かれた記念式典には、旧制府立高校同窓会、都立大附属高校同窓会から来賓として11人が出席。同窓会からは理事長が

祝辞を述べました。続いて行われた第二部は、在校生による10年インタビュー、吹奏楽部による記念演奏などが開催されました。大ホールで開かれた記念式典には、旧制府立高校同窓会、都立大附属高校同窓会から来賓として11人が出席。同窓会からは理事長が

祝辞を述べました。続いて行われた第二部は、在校生による10年インタビュー、吹奏楽部による記念演奏などが開催されました。大ホールで開かれた記念式典には、旧制府立高校同窓会、都立大附属高校同窓会から来賓として11人が出席。同窓会からは理事長が

祝辞を述べました。続いて行われた第二部は、在校生による10年インタビュー、吹奏楽部による記念演奏などが開催されました。大ホールで開かれた記念式典には、旧制府立高校同窓会、都立大附属高校同窓会から来賓として11人が出席。同窓会からは理事長が

祝辞を述べました。続いて行われた第二部は、在校生による10年インタビュー、吹奏楽部による記念演奏などが開催されました。大ホールで開かれた記念式典には、旧制府立高校同窓会、都立大附属高校同窓会から来賓として11人が出席。同窓会からは理事長が

祝辞を述べました。続いて行われた第二部は、在校生による10年インタビュー、吹奏楽部による記念演奏などが開催されました。大ホールで開かれた記念式典には、旧制府立高校同窓会、都立大附属高校同窓会から来賓として11人が出席。同窓会からは理事長が

第3回「八雲が丘賞」は写真部が受賞



受賞した写真部のみなさん。なぜか全員女子です

第3回「八雲が丘賞」は、桜修館中等教育学校・写真部が受賞しました。表彰式は昨年9月7日、第67回記念祭の閉祭式の中で行われ、都大附高同窓会から写真部の皆さんに、表彰状と記念品代(10万円)が贈られま

した。この賞は、桜修館の生徒たちの優秀な部活動や課外活動に対して、同じ八雲が丘で学んだ都立大学附属高校の同窓会から贈られるものです。第1回の受賞は日本文化部の茶道部門、昨年

の第2回はフィールドワーク部のみなさんが受賞しました。

デジタル技術が変えた写真撮影の日常

「写真を撮る」という行為は、今やあまりに日常的なものになっていきます。特にこの10数年デジタル化が急速に進み、ケータイやスマホにカメラが搭載されるようになってから、いわば「個人的記録」としての役割が中心になっているようにも思えます。いつも持ち歩いていて、すべて「証拠写真」が撮れる、そんな時代にな



メインアリーナで行われた表彰式

りました。コンパクトカメラやフィルム付き使い捨てカメラの登場は、写真撮影を身近なものに変えましたが、デジタルカメラがさらに状況を劇的に変えました。

部としての活動が 良い作品を生み出す

そのような中で、写真部の存在意義はどこにあるのでしょうか。その答えの一つが受賞した写真部員の発言の中にあります。

「写真部で学校行事を撮影するようになり、良い写真を撮るためには撮影する相手と良い関係を築くことが大切だと思ふようになった。」「前期と後期の生徒と一緒に活動するので、年齢



表彰状と記念品代が贈られました

の離れた人同士で交流できることが楽しい。」

シャッターを押すことはまさに孤独で個人的な行為ですが、被写体である相手との関係や部員同士のつながりが、一段高いレベルの作品を生み出すこと。これが部として活動することの大きな意味ではないでしょうか。

高い水準の 写真部の作品

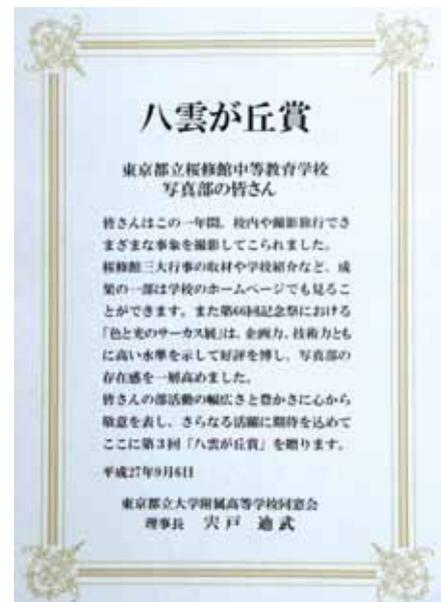
写真部員の作品は、なかなかのレベルにあると言えます。受賞理由のひとつだった第66回記念祭の「色と光のサーカス展」は高い企画力と技術力を見せましたし、昨年の第67回記念祭の展示「SUMMER ESCAP

」は実にユニークな試みでした。

「写真は人それぞれの好みや感性が異なるので、どう評価していいかわからない」のは、確かに悩みと言えます。しかし、そこから生まれるさまざまな意見が写真部の活動の幅の広さと豊かさを示しているのだと思います。

桜修館と 都大附高を結ぶ絆

「八雲が丘賞」は、桜修館と都大附高同窓会を結ぶ絆のひとつです。どんな活動が受賞したのかは、桜修館を知ることにもつながります。来年はどんな活動がノミネートされ、受賞するのか大いに楽しみです。



(日付が一日違っていました)

3年ぶりに 同窓会総会開かれる

昨年6月28日(日)、桜修館中等教育学校「多目的ホール」において、同窓会総会が開かれました。2012年4月以来、3年ぶりの開催で、来賓の桜修館・金田校長からご挨拶をいただいた後、活発な討議が行われました。

活動報告

同窓会活動のベースとなる会報は、年1回A4版カラー12ページを発行しており、最近号の部数は会員への発送8千9百弱、恩師および桜修館への配布が3百弱となっております。

名簿の管理に関しては、会員総数14350名のうち、会報発送後の住所判明者8659名。判明者増に努力中です。

「八雲が丘学友会」は、旧制府立高、都大附高、桜修館3校の同窓会相互の交流を図り、桜修館の発展に寄与することにも、旧制以来の知的財産、伝統の継承を目的として、年4回会合を

もっています。

記念祭には、同窓会ルーム「八雲が丘の集い」を毎年出展するほか、校歌、学生歌などを歌うイベントを旧制府立高OBとともに実施しています。

「八雲が丘賞」は、桜修館の生徒による優秀な部活動や課外活動に対して、都大附高同窓会から贈られる賞です。2012年に創設され、昨年第3回を数えまじた。

財政状況報告

2011年度から導入した会費は、3年間で3年会費の納入が約1400名、終身会費の納入が250名でした。終身会費を積立金に準じるものとする、3年会費だけでは経常費用の340万円には110万円ほど足りない水準であり、今後の納入会員増が不可欠となっております。

会則・細則改定

現在の10月～9月の会計年度を、4月～3月に改め

る件を原案通り可決。今年度は10月～3月の変則半年となります。ほかに監事を3名以内にするなどの修正を行いました。また会費の改定に関する理事会決定の報告を確認しました。会費は次回納入より年2000円となり、3年会費、終身会費は廃止されました。(詳しくは5面、9面をご参照ください)

今後の活動計画

基本方針は、①会員相互の親睦を深め、会員の同窓生としての活動を支援する、②旧制府立高以来の歴史、伝統、精神を受け継ぎ桜修館に引き継いでいく、③桜修館の教育の向上、発展に寄与するなど社会的に意義ある活動をする、を3つの柱としています。

現在行っている事業に加え、同窓生による「講演会企画」、課外授業「ようこそ先輩(仮称)企画」など、同窓会ならではの企画を実現していきます。また名簿の整備につとめ同期会、クラス会、クラブOBOG会などで活用できるようにしたいと考えています。

府立高校旧友会の足跡

事務局長 山田 早苗

旧制府立高校の同窓会が、機関紙「八雲」の最終号発行とともに全ての活動を停止したため、同窓生の動静を伝えて交流を続けるための会報発行を主目的として、新組織「府立高校旧友会」を設立してから三年目に入りました。

発足時に一五四名だった会員は、逝去や退会により、現在では遺族会員を含めて一三一名になりましたが、毎年一回の総会と懇親会のために、初年度には房総バスツアーを、二年度には終戦七十周年記念として、ソ連参戦の密約をいち早く参謀本部に打電しながら上層部には伝わらなかつた悲劇の生き証人を招いて講演会を開催するなど、イベントを毎年実施してきています。

会の規約では毎年四回の会報発行の他に、二年毎の会員名簿発行を定めており、桜修館や八雲が丘学友会の動向も伝えていきます。会が最終的に解散する時には、

残余資産を八雲が丘学友会に贈与することまで規約に謳われています。

第一回の総会は、生憎の台風直撃され、半数近い無断欠席者を出しましたが決算や予算案などの議案は無事に承認されました。

初の試みだった房総バスツアーは、最少催行人員を大幅に下回る参加者だったために、会からの補助金を支出して実施しましたが、天候にも恵まれ、フラワーパークの見学や海鮮料理で全員大満足でした。

しかし総会の赤字とバスツアーの補助金支出により、初年度のキャッシュフローには、大穴が開いてしまいました。同窓会の残余金から十万円のご寄附を頂戴して、ピンチを切り抜けることが出来ましたし、会長からも貸付金の返済を免除して頂きました。総会にもバスツアーにも参加されずに、会報購読のためだけに黙って年会費を払って下

さっている多くの会員には、感謝のほか有りません。

会報には都大附同窓会の宍戸理事長からも、何度か投稿を頂いており、旧制府立高校同窓生とその遺族だけしか会員資格を与えていない旧友会ですが、同じ八雲が丘で学んだ仲間との連絡は、今後も保って行きたいと考えております。



事務局インフォメーション

2014年度決算報告

2014(平成26)年度の決算は、表Ⅱの通り単年度収支で89万円の赤字となりました。予算比では43万円の収入不足に対し、支出も30万円の減です。今期は76万円の赤字予算を組んでいたため、結果的には予算に近い数字となっています。

現在、同窓会の必要経費は年間約340万円。内訳は、会報制作・印刷・発送で210万円前後、記念祭を含む事業費で約50万円、コンビニ収納経費など管理費で約80万円です。これに対して今年度の会費収入は230万円でした。実質約110万円の不足です。

●会費規定の改定

このたび会則・細則の会費規定が改定され、年会費2,000円となりました。改定の最大の理由は、同窓会運営に必要な350万円程度の会費収入を安定的に得るため、できるだけ納入していただきやすい形にするという点にあります。近い将来、口座からの自動振替による納入もできるようにいたします。

同時に、名簿管理の複雑さを解消する意味合いもあります。現状は、会費未納入・3年会費既納入1年目・2年目・3年目・4年目以降・終身会費既納入・納入免除、という複雑な分類になっており、重複納入などの間違いも発生していました。

今回の改定後も、すでに3年会費を納入された会員に対しては、納入から3年が経過したのちに納入をお願いすることになります。また、すでに終身会費を納入済の会員に対しては、今後も会費の納入をお願いしません。

●2014年度の会議ほか

2014年 11月 8日	第19回八雲が丘学友会
11月11日	2013年度会計監査
2015年 1月25日	上期「理事・監事・評議員会議」
2月28日	第20回八雲が丘学友会
4月17日	拡大常務理事会
5月30日	第21回八雲が丘学友会
6月28日	下期「理事・監事・評議員会議」 定期総会
7月25日	第22回八雲が丘学友会
8月15日	同窓会報編集委員会
9月5・6日	第67回記念祭「八雲が丘の集い」出展
9月 7日	第3回「八雲が丘賞」表彰式

●2015年度役員

理事長	穴戸 迫武 (13期)
常務理事・会報編集委員長	須田 大春 (8期)
常務理事・事業担当	佐々木浩二 (15期)
常務理事・会計、ホームページ担当	北原 久利 (18期)
常務理事・名簿管理担当	石川 恵子 (35期)
監事	簗原 利憲 (11期)
監事	川島 明彦 (20期)

【表Ⅰ】2014年度貸借対照表(財産目録)

(2015年9月30日現在)

科目・摘要	金額(単位:円)
I 資産の部	
流動資産	
現金及び預金	
現金	0
ジャパンネット銀行	1,233,814
みずほ銀行	10,051,655
ゆうちょ銀行	2,333,120
現金及び預金計	13,618,589
流動資産計	13,618,589
固定資産	0
資産の部 合計	13,618,589
II 負債の部	0
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	14,509,239
当期正味財産増減額	-890,650
正味財産の部 合計	13,618,589
負債及び正味財産 合計	13,618,589

【表Ⅱ】2014年度正味財産増減計算書

(2014年10月1日～2015年9月30日)

科目・摘要	金額(単位:円)
I 経常収益	
1、受取会費	
3年間会費	2,110,000
終身会費	180,000
受取会費計	2,290,000
2、事業収益	
名簿等売上	11,500
寄付金	
事業収益計	11,500
3、利息収益	1,472
経常収益計	2,302,972
II 経常費用	
1、会報費	
会報印刷費	1,086,383
会報発送費	849,372
会報編集作成費	116,640
会報費計	2,052,395
2、事業費	
名簿原価	129,000
ホームカミングデー費用	63,000
記念祭費	152,584
事業費計	344,584
3、経常管理費	
通信費	54,037
印刷費	2,420
手数料	534,933
会議会食費	153,656
事務用品費	13,825
雑費	37,772
経常管理費計	796,643
経常費用計	3,193,622
当期正味財産増減額	-890,650
前期繰越正味財産額	14,509,239
正味財産期末残高	13,618,589

監査報告:

財務諸表、帳簿、証憑を精査し、上記決算書に誤りがないことを確認します。

監事 簗原利憲 (11/16/2015)

監事 川島明彦 (11/16/2015)



ゲートに並ぶ大看板



今年のテーマは『祭り』



開場直後のゲート前



小さい子供に好評だった輪投げ



女子学生に人気の軽音楽部



来る人往く人留る人、初日の正午過ぎ

曇り時々日
差しぬり、とこったままですの
天気で、多くの見学者がオープ
ンを待ちきれずに並び、定刻に
は西宮神社さまからのダッシュ
で記録に向かっています。

桜修館に引継
がれ67回と
なる記念祭が、
昨年9月の
5、6日に
開催されま
した。

第67回記念祭報告

今回のプログラム



ワッショイワッショイ、お神輿様のお通りデイ



揃いの法被姿は旧制府立高の先輩方



創立十年ながら、数々のコンクールで
優秀な成績を残している吹奏楽部。
顧問の先生方も熱血指導!!





カラフル&ウィット



長蛇の列が途切れなかった模擬店



二日目早朝の中庭



ヒョンなところで「附属」発見



思い通りに飾れな〜い



更に小さい子供向けのイベントも



さて、キーオープンは…

例年に比べ「八雲が丘の集い」の来訪者が倍増した感があります。が、イスもお茶もまだまだ余っております。次回も出展できますので、休憩場所や待ち合せ場所として気軽にご利用ください。

あまりの人出で息もままならなかった桜修館フイバーの頃から比べるとずっと健全な状態になってきた感がありました。同窓会では例年同様B棟201講義室にて『八雲が丘の集い』の展示を行い、写真パネルや80年の歴史を物語る資料等の展示とDVDを終日放映致しました。二日目の午後には、2階コンコースにて旧制府立高校同窓会、都大附高同窓会、桜修館PTAの有志で恒例の「校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌」斉唱を行いました。

まさか?! ファイヤー名残の枕木か



校長先生、副校長先生にも毎年ご参加載っております



アーカイブⅢ

I~Ⅲの3回に渡ったアーカイブ写真は、新制第1回記念祭歌「手を繋げ」をイメージしたものです



桜修館PTAのメンバーも

しの
か師
懐
か恩

実に19年間

甲田充彦先生（1968年～1987年在職・体育）

私は1968年（昭和43年）7月から実に19年間、都立大附属にお世話になった。幸せというべきか、不幸というべきか。変化を好まない性格が災いしたのかもしれない。昭和62年に教育委員会に転出したので、私は1校しか経験していないという職場では極めて珍しい経歴で生きていくことになった。当時は、他の学校ではあり得ない人事が可能だったのが都立大附属だった。

それは何も私だけではない。最長は斉先生で36年らしい。他にも国語の小野先生、体育の工藤先生、数学の大山先生、英語の上田先生、物理の松本先生などはいずれも25年以上である。今ではそんな組織体が好ましいものとは考えられないが、当時は私も若くて組織論を考える頭もなく、日々の都立大附属の学風にすっかり染まっていた。毎年変化する多様な生徒たちとの

触れ合いが楽しく、悪く言えばのんびんだらりと過ごしていたと言われても仕方がない。その間、4回担任を持たせてもらった。近年久野先生の声かけで、昭和45年～50年当時に都立大附属で同僚だった方々が集まり懇親会を開いている。はじめはシェ・マツモトで行われ、30人近くが集まった。それは楽しく良い時間を過ごした。その後、人数は10人程度になってしまったが、浅草や日比谷などで集まっている。前回は、喜多、久野、春山、船山、伊東、吉田、前澤、甲田が集まった。現況や当時の出来事をただただ笑顔で話すだけの時間である。現役で働いているのは私だけになってしまったようだ。

私のことを少しだけ記して終わる。教育行政に入ってから、三鷹市で4年、東京都で9年お世話になり、都立南多摩高校と都立竹早高校で7年間校長をやらせても

らった。その間、凶らずも東京都の校長会長、全国の校長協会会長をやるはめになった。校長の人材不足が露呈したことに他ならない。退職後、縁あって千葉にある秀明大学学校教師学部の

教授兼教育研究所長として、現在もフルタイムで教員養成に励んでいる。4年間、中央教育審議会委員を務めたことが私の原動力になっている。平成17年の秋の園遊会にお招きいただいたことは一生の思い出である。都立大附属・桜修館同窓会の益々の盛隆を祈ります。

寄稿

「緑陰」図書館報 第五号

第8期生 岩田末廣

大学院時代からアメリカ留学までの十年間の研究課題を調べようと古い段ボールをあさっていたら、附属高校図書館報第五号昭和三十七年七月発行が出てきた。この号は「特集・現代と科学」であり、修士課程一年になったばかりの私が「社会進歩と科学」という文を寄稿させられている。誰に依頼されたのか覚えていない（同期の長倉伸子さんがその頃図書司書だったから彼女の依頼の可能性が高い）。学生運動を「卒業」し、勉強と研究生活を始めると

君は、写真集「原爆の記録」を報告している。日本原水協の「原爆白書」にまで言及し、勉強ぶりを示している。戸坂純一君は「蘭学事始」の読書会を報告し、良沢と玄白の蘭学に対する態度の違いを論じている。多分六回の読書会の成果なのだろう。大石先生の文では、モスクワ民族友好大学に留学していた笹尾哲夫さん（十一期）のモスクワ報告も触れられている。笹尾さんとは、一九九〇年代の終わり頃、総合研究大学院大学の教授会でお会いした。彼は天文台から、私は分子科学研究所から出席していた。彼とは在学時代が重なっていないが互いに記憶をしていた。多分、斉正子先生を通じて知り合ったのだろう。

他には、大石修平先生が「科学と文学・シニール・ヴェルヌ」、鈴木寛男先生が「数学と美術」を書かれている。宮下博善先生の「参考書案内・化学について」を含め、文の端々から時代を感じ取ることができる。六二年という「六〇年安保」後の、数年後におきる「学園紛争」「七十年安保」前の時代である。先生方は大変よく勉強されておられることも読み取れる。高校生の都賀肇

「社会進歩と科学」という私の文は、この二、三年前に出版されたソ連の本「二世紀のレポート」を論じている。実はこの本については、三年前に同期会の文集「この一年」にかなり肯定的批評を書いているのだが、「緑陰」では、科学・技術の進歩を単純に謳歌することの危険を説く文になっており、私自身の進歩が見える。

私が在学時代に編集に参加していた「都高時報」もそうだが、この「緑陰」も時代を生き生きと知る資料である。デジタルアーカイブ化して、インターネットで公開したいものだ。現在の在校生にも「歴史」を実感してもらえ、今はやりの「民間の資料」をビッグデータとして扱う現代史研究にも資することができよう。同窓会の事業の一つにしたらどうだろう。



寄稿

あのころ

土屋純夫(4期)

「ああ西山の雲はれて…」

昭和二十六年春入学した僕は無事年月を経てこの2月満八十歳になる。学制改革で都立大附属高校が誕生しての入学生としては2回生である。

通用門から入って左側に

グラウンドが広々とひろがり、本校(大学)校舎に続いて右側引込んだところに体育館、突き当たりには可愛らしい赤い屋根の校舎があった。規模も1学年男子100、女子50と新校舎にふさわしくこぢんまりしていた。

中学時代学校新聞を編集していた僕は高校でもと考えていたがその希望は入学早々断念させられた。この新聞は平和思想一色で心身ともにおくてだった僕にはついて行けるものではなかった。昼休みの校庭には「ベルリンアピール」「ストックホルムアピール」の署名を勧誘する上級生の声が飛び交っていた。2年生の5

月、有名な「メーデー事件」があり、全学連の尻馬にのったその年の卒業生と上級生の20名ほどが碑文谷署でひと晩泊められ、翌日凱旋?した光景が忘れられない。みんな授業を中断して通用門で出迎えたのである。

そんな中、僕はバレーボールに夢中で、といっても練習は1日おきだったから練習がない日は映画館に入りびたりだった。勉強はそっちのけだ。

戦時中中断されていた欧米の洋画がどっと輸入された上、黒澤明の「羅生門」がヴェニスで金獅子賞をとったのを皮切りに日本映画の黄金時代が到来していた。お隣自由が丘には4つの映画館があったし、大岡山、武蔵小山にまで足を伸ばした。午後の授業をすっぽかしたこともしばしばで、毎日弁当を作ってくれた母親には申し訳ないことだった。映画狂いは、のちに浪人しても続き、異性に目覚

めることで終止符を打った。バレーボールは斉正子先生に勧められて部に入った。旧制のラスト、新制の1回生の先輩方が鍛えて下さり、3年の春の都大会では3位となり水戸で開かれた関東大会に出場することができた。軽井沢での夏季合宿が懐かしいが、今思うと当時の部活動は全て先輩と生徒による自主運営であり、学校当局が一切関与しなかったのは都立伝統の自主・独立精神の現れだったのだろう。OBになって女子バレー部の合宿の時も付き添いはわれわれ先輩だけで、学校関係者が一人も同行しなかった。今では考えられないことだ。



東京都大会3位。旧体育館前で記念撮影

バレー部での先輩たちとの交流は練習だけでなく、夕飯後はコンパとなりジュエスチャーや名指しゲームなど頭の遊びもあり、床を敷いて横になってからも「友情とはなにか」「人生とは?」などの会話が寝るまで続いた。それは唯一遠征した水戸の宿でもおなじだった。優れた先輩たちのこうした演出は都立の運動部でも珍しいものであったろう。これは、戦時中からこれら先輩たちの心身の面倒をみて来られた亡き斉正子先生の教えがもとだと思われる。

「自分で考えて行動する」府立高校創立以来の伝統を戦後まで引き継がれた同先生のご尽力には感謝するばかりだ。高校を選ぶとき、戦前派の父がこの学校の自由の気風を評価したものか、昔の学制にならって都立なら東大をはじめとする旧帝大に進学が容易だと考え違いましたものか今となっては不明だが、まっすぐな大人になれた」という意味でかけがえのない青春時代ではあった。

会則、細則の改定部分 (変更部分は赤字で示してあります)

<会 則> 2015(平成27)年6月28日改定

第1章 総 則

第1条(名称) 第2条(目的) 第3条(事業) 第4条(所在地)<略>

第2章 組 織

第5条(会員、特別会員)<通常会員とあるのを会員とする><略>

第6条(役員) ①理事長1名 ②顧問2名以内 ③監事3名以内 <旧>監事1名

④常務理事若干名 ⑤理事原則各期1名 ⑥評議員各級1名以上。

第7条理事長、監事、および常務理事は理事会で選任する。

対外的には理事長は会長、常務理事は副会長と称することがある。

<赤字部分追加>

第8条(理事)第9条(評議員)第10条(任期3年)<略>

第3章 会 務

第11条(理事長)第12条(理事会)第13条(監事)第14条(評議員)

第15条(評議員会)第16条(総会)第17条(総会事項)<略>

第18条(総会、役員会の議事)<中略>

但し会則の変更を採決するには出席会員の3分の2以上の多数を要する。

第19条(事務局)<略>

第4章 会 計

第20条(収入と経費)第21条(会計、監査)<略>

第22条本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌3月31日に終る。

<旧>毎年10月1日に始まり翌9月30日に終る

第5章 支 部・委 員 会

第23条(設置)第24条(届け出)第25条(支部会)<略>

付 則

1、規程にない項目については、理事会により細則を定めることができる。

2、本会則は、平成24年10月1日より施行する。

3、本則第22条は、移行期間として平成27年10月1日に始まり翌3月31日に終る6か月を1会計年度として扱い、翌4月1日より本則通り扱うものとする。<追加>

<細 則>

第1条(事務所の所在地、正式名称)

第2条(八雲が丘学友会)

第3条(会費) 会員の会費は年間2,000円とする。特別会員は会費を免除する。

<旧>特別会員は会費を免除し、通常会員ののみ年会費とする。金額は3年間5,000円、終身会費30,000円とする。

第4条(経費の支出)第5条(常務理事会)第6条(常務理事会の構成)

第7条(予算・決算等会計事項)第8条(事務局員)第9条(支部、委員会の設置)

第10条(名簿の管理)第11条(会報)

第12条(ホームページ)

付則 1、本細則の変更、改廃は理事会により行う。

2、細則の規定にない事項は、常務理事会または理事長の決裁による。

3、本細則は平成24年10月1日より施行する

同期会・クラス会・同好会レポート

4期生の集い2015

日時：2015年5月22日(金)
会場：つばめグリラ品川駅前店
参加者：35名

4期生の集い2015は今年も「つばめグリラ品川駅前店」において5月22日に開催、35名が集まった。案内葉書の総数は105名だったのでちょうど3分の1が出席したことになる。
前回の直前にB組の服部秀樹さんがお亡くなりになったが、今回も出席のご返事をいただいていたA組斉藤雄一さんが急にお亡くなりになった。



このお2人への黙祷に続き、幹事を代表してB組河尻宏史さんの挨拶と乾杯の音頭で乾杯し、開会となった。

残念ながら欠席するとのメールを頂戴した喜多先生へ、参加者全員で寄せ書きを行い後日お届けした。

一方、卒業以来連絡が取れなかったB組の古川(旧姓・菱田)安都子さんが参加され、60年を超えた再会に参加者は大いに旧交を温めていた。

平成26年春の叙勲でA組八木信忠さんが瑞寶中綬章を受章したので、皆でこれを祝った。この八木さんも完成に尽力されたが、故野口貞義さんが最後のがんばりを見せ完成させた「都立大学附属高校校歌・寮歌・応援歌」DVDをバックに皆で合唱し、記念撮影をして解散した。

今回の名簿の修正で、目立ったのがメールアドレスの新規取得、しかも女性が目立った。各自情報弱者に甘んじるどころなく行動していることを感じた。
(田中誠一郎・記)

第5期 同期会

日時：2014年11月8日(土)
会場：シーボニア・メンズクラブ
参加者：33名

5期生(昭和30年卒業)の同期会が

平成26年11月8日(土)に行われました。日比谷公園近くのシーボニア・メンズクラブが例年どおりの会場です。参加者は33人でしたが、物故者が26人、消息不明の方もかなりの数ですので、まずは盛会といえるでしょう。欠席者には体調を崩してこれらの方はいませんが、「孫の世話や他の都合と日程が重なって残念ながら」という方も多いため、27年度はもっと増えるでしょう。今年になって鬼籍に入られたクラスメート3人の冥福を祈って献杯のあと賑やかに歓談、互いの近況を報告し合い、来年の再会を約して解散しました。
(西尾元宏・記)

第11期 同期会

日時：2015年6月6日(土)
会場：自由が丘「フランチネル」
参加者：48名

2年毎の同期会も、各部持ち回り幹事で、蹴球、音智、排球、籠球・天気・美研、卓球・水泳・生物、山岳・硬庭と続き、今回の野球・新聞・社研でほぼ一巡。120名への案内状も戻りなし。黙祷(卒業後20名)のあと、母校報告。恒例の挨拶では、教科書採択の話、九条の会での活動、石垣島での放射能測定、国会前反原発、反戦争法の話など、



都大附高の面目躍如。ネパールのエベレスト街道、大地震の話題もありました。喜多先生よりの寄贈本の抽選会で盛り上がり、最後は都大附高生に戻っての記念祭歌、校歌の大合唱。
次回幹事蹴球部を紹介し、全員集合写真撮影でお開き。まことにさわやかで、楽しいひと時でした。(武山伸昭・記)

第23期 還暦同期会

日時：2015年2月21日(土)
会場：ザ・サクラダイニング・トウキョウ
参加者：117名

第23期の「還暦同期会」は、117名の参加で盛大に開かれました。

同期会・クラス会・同好会レポート



来賓のご挨拶は地学の先生で水泳部顧問をなさった久野猛先生。英語の西山節先生からはお祝いの手紙をいただきました。亡くなられた恩師5名、同期生15名を偲んで黙祷して開会。

乾杯のあとは楽しく歓談、はじめは名前と顔が一致しなかった同期生も大いに打ち解け、旧交を温めました。

幹事が準備した企画は、会場のスクリーンを使ったスライド・ショー。現役時代の写真や、都大附高を引き継いで設立された桜修館中等教育学校の写真、旧制府立高の写真などを楽しみました。A組小野義廣さんの「わはは体操」の実演・講習では、これからの老後を健康で送るための知恵を身に着けました。

楽しく賑やかにあっという間に4時



第24期 同期会

日時：2015年10月17日(土)

会場：「YAKUMON111」

参加者：86名

卒業後初めての同期会を開催しました。都立大学跡地にある「YAKUMON111」にて、伊東先生、大石先生

間近の時間がたった同期会は、5年後の再会を約して、次回幹事のパンザイで幕を閉じました。(平出英夫・記)

機研O.B.・OG懇親会

船山先生、久野先生をお招きし、総勢86名参加、盛況のうちに終了しました。会場のスペースの関係で全員着席できず、3分の1の方は立席でした。

18時半に開会し延々3時間、久々の再会で話尽きず、還暦を祝う会でもありましたが、皆さん高校時代に戻り、生き生きと輝いていました。

都立大学駅周辺は景色が変わり、我々も容姿は変わってしまいましたが、高校の頃の熱き想いは変わることなく大事にしたいと実感しました。(A組 佐野 章・記)

機械技術研究会(略称「機研」)では例年鉄道記念日に一番近い土曜日に懇親会を開催しているが、昨年も10月17日に市ヶ谷のイタリアンレストラン「ブオーノ」で開催され、1期生から22期生まで、総勢23名が参集した。

1期B組小野寺捷洋さんの挨拶に引き続き一同の再会を祝して乾杯。その後歓談・会食に移りしばし話に花が咲いた。しばしついでに全員2分間スピーチとなり、各自持参した映像上映を交えて説明に耳を傾けた。写真の中にはそれぞれが在学中に撮影したものも有り、半世紀前の詰め襟学生服姿を懐かしむ場面もあった。



(田中誠一郎・記)

本年もブラジルから参加の3期B組鈴木謙太郎さんが撮影した巨大なアナコンダはなんと3トン半とびっくりで、アマゾン川流域の乱開発により時折このような巨大生物が里に現れ牛などの家畜被害が起きるとのこと。その大きさに皆びっくりした。

4期A組手塚要さんは「白内障手術の結果、視力が1.5に戻った」とのこと。昔以上の工作力を発揮して制作した運転音システム内蔵の超小型タンク機関車と、超小型ディーゼル機関車を持参し、運転実演をして皆を喜ばせた。

2時間半に及ぶ楽しいひととき。最後に、玄関前で記念撮影。来年の再会を約して解散した。

事務局インフォメーション

2015年度会費の納入のお願い

幅広い同窓会活動を展開するためには、同窓会の財政基盤を確立していく必要があります。5ページの「事務局インフォメーション」にあるように、現在同窓会の収支は赤字基調です。より多くの会員の会費納入をお願いします。

<今回、対象外の方>

1期から60期の卒業生の方で、昨年度および昨年度に3年会費5,000円を納入された方。すでに終身会費を納入された方。卒業後5年未満の61期卒の方、特別会員の先生方も会費免除です。

今回納入をお願いする対象の方には、金額入りの払込取扱票が同封されています。万一対象外の方で金額が入っていたら、行き違いご容赦ください。

<年会費は2,000円>

同窓会会則・細則の改定により、年会費は2,000円となりました。3年会費5,000円、終身会費30,000円は廃止されました。改定の経緯は5ページをご覧ください。

<会費納入の方法>

● ゆうちょ銀行、コンビニ

同封の払込取扱票をお使いください。

● 銀行振り込み

ジャパンネット銀行
すずめ支店(支店番号002)
普通預金 6271398
(口座名義) トウキョウトリツダイガクフゾク
コウトウガッコウドウソウカイ

ATMから振り込む場合は、振り込み人の名前を修正して、名前の前に「卒業期・クラス」を入れてください。

(例=13Aトリツタロウ)

ネットバンキングご利用の場合は、ATMと同様に振り込み人名を修正するか、通信欄に卒業期・クラス・氏名を入力してください。

編集後記



今号の1面特集は、初の「八雲が丘ホームカミングデー」報告です。15期生40期生と桜修館1期生が一堂に会しての懇親会は、大いに盛り上がりました。その写真を、会報史上最大の大きさで掲載しました。昨年3年ぶりの同窓会総会が開かれました。重要な議題は、会計年度の変更と会費規定の改定。9面に改定部分の詳細を掲載しました。5面と12面を併せてお

35期 石川 恵子
26期 嶋津 和行
21期 根岸 之夫
18期 北原 久利
14期 川田 秀文
13期 宍戸 油武
8期 須田 大春
同窓会報編集委員会

読みいただき、ぜひ同窓会の財政基盤確立にご協力いただきますようお願いいたします。会計年度の変更に伴い、次回の会報は6月末または7月初めに発行します。原稿締め切りは、4月20日です。どうぞよろしく。

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます

社会	喜多 迅鷹 先生		2015年9月12日
1B	山田 稔		2014年9月7日
2A	石井 保男		2015年1月23日
2A	加藤 実		2015年3月1日
2A	北村貞太郎		2013年9月
2A	五味 保男		2014年4月
2B	武井 宏澄		2015年5月31日
3C	寺沢 悦夫		2008年
4A	斎藤 雄一		2015年4月12日
4B	服部 英樹		2014年7月17日
5A	長嶺 公成		
5A	池田美知子	鴨野	
5B	村井 昭彦		2011年1月28日
5B	山田 基久		
5B	倉田 郁子	緒方	
5C	鶴田 至誠		
5C	西尾 文雄		
5C	今野 夏子	林	2014年6月8日
5C	柳筒真佐子	山森	
5C	久住呂秀孝		
5C	西川孝之助		
5C	太田美穂子		
7C	城村 賢二		2007年
8A	菅谷 幹彦		2015年6月14日
8B	宮崎 哲郎		2015年3月11日
9B	岩田 和子	和田	2014年6月6日
10A	熊取谷 誠		2014年6月23日
10B	野口 建彦		2014年2月20日
11B	飯野 乾二		2013年1月26日
12B	岡本 道夫		2014年9月6日
15B	福島 一政		
15D	中杉 武雄		2011年5月1日
15D	笹島しのぶ	桜井	2013年11月18日
16C	長 シズ子	飯田	2006年4月
17C	御子柴 滋		2014年11月
17E	川井 博		1999年11月20日
19B	安部志津子	養原	2011年8月4日
19D	谷口 早苗	百田	2013年5月16日
20D	水足由美子	津田	2013年6月12日
21C	寺田 弘司		
23B	堀内 裕二		2013年10月1日
23B	藪島 淳子		2008年8月
23C	金井 明子	三並	
23F	日原 弘二		2005年
25B	由良 淳子	高木	2012年12月17日
28D	鈴木 邦宏		2014年8月9日
29B	高橋 卓哉		2015年4月11日
44C	須藤 郁子		1998年8月18日

同窓会事務局に連絡のあった方のみ掲載しています

同窓会への連絡方法

住所の変更、訃報、その他の同窓会への連絡は下記いずれかの方法をお願いします。

● インターネット

同窓会のホームページ<http://yagumokai.org/>のトップページ左側(ご連絡) Contactボタンをクリックするとメールフォームが出ます

● 郵送

〒152-0023 東京都目黒区八雲1-1-2
都立桜修館中等教育学校内
都立大学附属高等学校同窓会

または

〒152-0002 東京都目黒区目黒本町4-23-6
宍戸方 都立大学附属高等学校同窓会事務局